

## 頂いた意見と回答

No.	頂いた意見（要約）	回答
1	（研究生作品展を見て）我々販売を生業としてる者にとって、余りにもかけ離れた世界である事を実感した。一般の美濃焼に関わっている多くの方々に親しみやすい意匠研究所にして頂けると大変有難い。（例えば）生活スタイルをイメージ出来る様に具体的なテーマを持ったデザイン企画等もあっても良いのではないか。	当所では器や注器など、道具の制作を基盤として研修を行っておりますが、造形作品を追求する研究生もおり、彼らの個性を尊重しております。造形作品の場合、食器など実的なものより一般的には親みにくいかもかもしれませんが、食器にせよ造形作品にせよ、多様な感性を持つ若者の表現として暖かく見守っていただけましたら彼らの励みになりますのでよろしくお願いたします。
2	陶芸アカデミーと陶磁器フェスティバルの開催。美濃焼の将来に期待します。	2030年に開催が決定した国際陶芸アカデミー総会が、陶磁器フェスティバル美濃期間中に美濃焼地域の関係各所と連携し、美濃焼の将来に貢献できるよう進めてまいります。
3	販路や流通など、今どきの売れ筋商品の開拓の検討を期待します。	販路や売れ筋商品については、陶磁器業界の皆様の専門分野であると認識しておりますが、当所も常に関連情報に注視し皆様の一助となればと考えています。
4	食器への支援が多い、というか殆どである印象で、タイルとの協業が非常に少ない。	近年の支援の中心として、3Dモデリングに関する技術支援があります。例えば令和7年度の協働研究では、4件中2件がタイルメーカー様であり、面白いアイデアをいただいています。次年度も募集を行う予定ですので食器・タイル問わず、ご参加いただければと思います。
5	原料の枯渇問題について、市だけでなく県や国も問題意識を持ってもらい対策を講じたい。	現在多治見市では、原料枯渇問題やCO <sub>2</sub> 排出、不良陶磁器の埋め立などの窯業界を取り巻く環境問題に対処するため、国や県、窯業関係者などに参画をいただき「MI NO サステナブル セラミック プロジェクト (MSCP)」で協議しております。このプロジェクトへのご理解とご協力をお願いします。
6	「3Dモデリング技術を活用した新商品開発支援は、既に陶磁器業界に普及しており」とありますが、陶磁器業界には「普及」というより「認識」は広がっているという感じでしょうか。	ご指摘ありがとうございます。ご意見を参考に表現を改めます。
7	「発想はあっても製品化は無理」「旧来の技術の常識から外れた製品を作りたい」と思っている企業はきっとあると思いますので、そこを掘り下げた活動も視野に入れていただけると幸いです。	当所では日常にお困りごとなどのご相談に応じております。人員や保有機器・技術などの制限はございますが、可能な限りご対応させていただきますのでご相談ください。
8	（「意匠研陶芸スタジオ」について）意匠研究所修了後、数年間利用可能な専用のスタジオを整備し、そこを「修了生が自立し、生計を立てるための場」と明確に位置付ける。この施設的具体化と、利用ルールの明確化（商業活動の許可、原材料費の有料化等）をぜひご検討いただければ幸いです。	「陶芸スタジオ」は、一定期間意匠研究所の支援のもと制作活動を行い、修了生の自立を手助けする施設として開設する予定です。修了生は利用料などを支払い、原材料等は自己負担となります。利用ルールは書面にて明確に定めることとしています。
9	研究生の募集人数を見直す方針には賛成いたします。少数精鋭で育てた研究生の方が、結果として産地への貢献も大きくなるのではないかと期待しております。	ご賛同ありがとうございます。2年制コースの定員を削減する一方、上位コースであるセラミックセラボを強化・増員することで、より多くの優秀な人材を育成し産地への貢献度向上を図ってまいります。
10	人手不足の解消や技術の伝承といった、より緊急度の高い課題も含めて、研究所にはぜひ幅広い視点でご検討いただければと願っております。	陶磁器業界を取り巻く喫緊の課題を念頭に、当所が果たすべき役割を今後も事業等に反映させてまいります。
11	今後の「意匠研究所」の方向につきまして全面的に賛同いたします。	ご賛同ありがとうございます。ご期待に沿えるよう努力してまいります。
12	意匠研の建物について、そろそろ建て直しされるか、旧市庁舎や他の施設を活用した移転などを考えていただけましたら・・・いかがでしょうか。	ご指摘のとおり、施設の老朽化やスペース不足などの問題を抱えており、施設整備の必要性について検討を始めています。その中で建て替え・移転・統合等も選択肢に入れ検討してまいります。